

くまのプーさん

ぱたぱたおりき

取り扱い説明書

商品名の旁とお読みください。

この度は、TOMY「くまのプーさん ぱたぱたおりき」をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。御使用前に、この取り扱い説明書をよくお読みください。また、読み終わった後は必ず保管しておいてください。



▲ 注意 (5歳以上)

商品名の旁とお読みください。

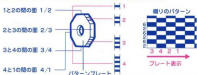
- 子供が目を刺さる、皮膚を傷つける恐れがあります。目を刺さる恐れがあります。
- 子供が目を刺さる恐れがあります。目を刺さる恐れがあります。
- 子供が目を刺さる恐れがあります。目を刺さる恐れがあります。
- 子供が目を刺さる恐れがあります。目を刺さる恐れがあります。
- 子供が目を刺さる恐れがあります。目を刺さる恐れがあります。
- フラッシュの破片を吸い込む恐れがあります。目を刺さる恐れがあります。

取扱い 子供が目を刺さる恐れがあります。目を刺さる恐れがあります。



▼「ばたばたおりき」は、プレートとダイヤル番号の組み合わせにより、たくさんの種類のパターン模様が見れます。

●プレート表示とは、パターンプレートについている番号のことです。



●ダイヤル表示とは、パターンダイヤルの番号のことです。



糊る前の準備

●リリースレリーフ留め、毛糸針はランナーについています。糊る前にランナーからとりはずします。ランナーから切り取る時は手で無理せず、ていねいに切り取ってください。切り取った部分に突起物がある時は思わぬケガをする場合がありますので、きれいにけずり取ってください。



●リーフ留めは箱に入っていて3個は手帳に付いています。

プーさんレリーフの使い方

●プーさんレリーフは図のようにして作った作品にフックポイントとして使ってください。



♥ テーブルセンター

まず素材は、一番基本になる平捲り(11ページ・捲りのパターンNO.1)で、
テーブルセンターを捲りながら練習してみましょう。



出来上がり寸法：幅約15cm・長さ約30cm
タテ糸約10g、ヨコ糸約10g使用

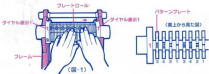
切替セマのマーク



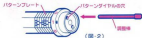
3 4 2 1 3 4 2 1
プレート表示

1. パターンプレートの準備

- ① フレームの上にプレートロールを巻きます。そのとき、ダイヤル表示の1が左右とも真上になるようにします。
- ② パターンプレートを(図-1)のように右手で回し、左手で軽くおさえながら、左から3421-3421とセットします。



- ③ パターンプレートをセットし終わったら、パターンダイヤルの穴の一方に調整棒1本を差し込み、パターンプレートを固定します。(図-2)



2. タテ糸の張り方

- ① タテ糸を平均に張るために、(図-3)のようにダイヤル表示1の穴にもう1本の調整棒を差し込みます。(タテ糸は長さ以上の物を使用してください。)



- ② 糸糸のはしを輪にして結びます。(図-4)



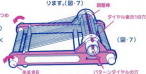
- ③ 輪にした糸糸を(図-5)のように糸まき目のつめ1にかけ、次にプレートロールの左はしのかぎに入れ、糸まきAのつめ1にかけ、またプレートロールのとなりのかぎに入れ、糸まきBのつめ2にかけます。次からはプレートロール→糸まきA→プレートロール→糸まきB→プレートロール→糸まきAと、つめを1つおきに糸をかけながらタテ糸を平均にはっていきます。



- ④ 全部はりおわったら10cmぐらい糸糸をのこして、一度ハサミなどで切り、糸まき目の最後のつめに輪んで止めます。(図-6)



- ⑤ ダイヤル表示1の穴に差し込んである調整棒をぬきとり、パターンダイヤルのもう一方の穴に差し込みます。糸まきBを矢印の方向へまわして、タテ糸を平均にピンとほります。(図-7)



- ④ 図クシでヨコ糸を手前に引き寄せます。図クシは引き寄せたまま、おいておきます。
- ⑤ ダイヤル表示をらにあわせて、左から右へ押をくくらせ、ヨコ糸を通します。このときヨコ糸の右はしを図クシより3 cmほど上におき、ヨコ糸がなめになるようにします。これにより、ヨコ糸にゆるみがついて、縫い幅がきれいにそろいます(図-11)。(ヨコ糸を強く引きすぎると、幅がふよふよになりますので注意してください。)



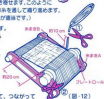
(図-11)

- ⑥ 図クシをとり、手はったヨコ糸を手前に引き寄せます。このように2・6・2・6……とダイヤルをあわせ、ヨコ糸を通して通り通めます。(短糸の場合、4回縫って約1 cmになるのが適当です。)

- ⑦ 80段(約20 cm)縫ったら終わりにします。縫い終わった最後のヨコ糸は、布はしから10 cm位残して切ります(図-12-①)。

- ⑧ 糸まきAにかけてあるタテ糸を、プレートロールと糸まきAとの間で切ります。(図-12-②)タテ糸の間の長さをみこんで切らしましょう。

- ⑨ 切ったあと、布を手前に持ってきて、糸まきBからタテ糸をはずします。そして、つながっているタテ糸の端をハサミで切っておきます。



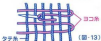
(図-12)

5. 糸の始末(フリンジのつくり方)

- ① ヨコ糸の糸はしがでている反対側から、4〜5本ずつ束ねて結び帯をつくります。(帯のつくり方は、デザインにあわせて選びましょう。)



- ② 残して切った10 cmのヨコ糸に毛糸針をつけて、(図-13)のように縫いこみます。)



(図-13)

- ③ 束ねた端をきれいにくして整え、ハサミで切りそろえます。(図-14)これで完成です。



(図-14)

どうですか、テーブルセンターはうまく織れたでしょうか。

最初はなかなかうまくいかないかもしれませんが、だんだんじょうずになってきますから安心してください。今度は、パターン機を使ってマフラーを織ってみましょう。

♥マフラー

これは織りのパターンNO12で織ったものです。

タテ糸約40g、ヨコ糸約60g用意します。

タテ糸とヨコ糸の色をかえると模様がはっきり織れます。



20cmより寸法：幅約18cm・長さ約180cm

1. パターンプレートの準備

- 自分の好きなパターンを、11ページの織りのパターンの中から選び、パターンプレートをセットします。そして調整棒1本を差し込み固定します。（わからなかったら3ページを見てください。）

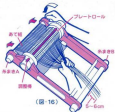
2. タテ糸の張り方

- 180cmの長さのタテ糸を40本用意します。（タテ糸は並太以上の物を使用してください。）（180cm＝織り上がり寸法130cm＋腰の分30cm＋20cm）
- 40本のタテ糸の片はしにそれぞれ結び輪をつくります。（図-15）



- 糸まきAのつめに、40本のタテ糸の輪をそれぞれ1つずつかけ、プレートロールの足子に入れます。そしてタテ糸が、はずれないように調整棒をダイヤル表示1の穴に入れ、タテ糸の上に通します。（図-16）

- ④ あて紐を3枚用意します。プレートロールの下からあて紐1枚を通し、糸まきAにはさみます。このときあて紐の両はしをセロテープで糸まきAにとめると、あて紐がずれずにきれいに巻けます。



(図-16)

- ⑤ タテ糸を(図-16)のように左手で握り、太らんでいる糸のないように通します。糸を通ったまま、右手で糸まきAの右ハンドルを回す側へまわして、あて紐と一緒に糸を巻取り、糸のはしが手前の糸まきBから5~8cmあまったところでとめます。(巻取りの紐がなくなったら、次の紐をつけたして巻きます。)

- ⑥ タテ糸を左から顔に、1本ずつ2リを通して手前に引き、糸まきBのつめに結んでいきます。(図-17)

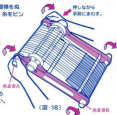


(図-17)

- ⑦ タテ糸を全部はりおわったら、調整棒をぬきとり、糸まきBを手前にまわし、糸をピンとはります。

- ⑧ 戻の部分として、タテ糸の手前から15cmを糸まきBに、あて紐をはさみながら巻取りします。このとき、糸まきAの左右を両手で押しながら手前にまわし、糸をゆるめ、糸まきBを手前にまわして、また糸をはり、これを繰り返して巻取りします。(図-18)

※糸をゆるめるときは、必ず左右のハンドルを同時に使ってください。



(図-18)

3. 織りましょう

- ① 序に糸を巻きます。6ページの「3. ヨコ糸の準備」の①を参考にしてください。
- ② デザイン表示を矢印にあわせて織ります。織り進むにつれて、ヨコ糸が通しにくくなるので、約15cm織るごとに、糸巻き8にあて紐をはさみながら、布を裏返っていきます。これを繰り返して、540段（約130cm）織ります。（紐がたりなくなったら、糸巻き8のはずれた紐を使ってください。）

4. ヨコ糸をつなぐ時

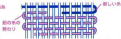
- ① 序に巻いたヨコ糸が切れたときは、下の図（図-19）のようにしてつなぎます。



（図-19）

5. ヨコ糸の色をかえる時

- ① 序を2本使います。新しい色の糸は、前の糸の終わりと逆の方から序を通して下の図のように織ります。（図-20）



（図-20）

6. 布の両はしをそろえる

- ① パターンによって、（図-21）のように両はしのタテ糸にヨコ糸が通らないときがあります。そのときは両はしのタテ糸を必ず（図-22）のように上下を逆にして序を通してください。



（図-21）



（図-22）

7. 糸の始末

- ① 尾の部分としてタテ糸を15cmほど残し、ハサミで切ります。
- ② タテ糸の尾の部分をデザインにあわせて、4〜5本ずつ束ねて結び尾をつくります。
- ③ 裏側に尾をくして整え、きれいにハサミで切りそろえます。（図-23）（アイロンをあてると結び目がきれいにそろいます。）これで完成です。



（図-23）

8. フリンジにしない場合の糸の始末

フリンジを作らない場合は、次のような方法で糸の始末をしましょう。

A. カギ針を使う方法

- 1 始末した糸が目立ちません。
- 2 市販のカギ針を使って、右図のように始末します。



2本つつしよに1本づつでタテ糸を始末してから、カギ針を(図-24)のように裏に穿たないようにとめます。



同じタテ糸も同じように始末します。



自分な糸を縫います。

B. 糸でとめる方法

- 1 ウツ巻に、糸の始末のあとが見えます。
- 2 下の図1~4のように始末します。



(1) ②、③の糸をおさえて①の糸を2本先の④の糸の下をくぐらせ、上に引き上げます。



(2) ②、③の糸をおさえて④の糸の下をくぐらせ、引き上げます。



(3) 同じ手順をくり返し、最後に残った3本で三つあみにします。



(4) 引き上げた糸を3~4本ひとまとめにして、平縫糸とおした針で裏面に糸がでないように、かえしぬいでとめます。

マフラーの出来がえはどうですか？ 模様がきれいに縫えましたか？

縞りのパターン

- プレートロールの縞柄が、縞数・幅等の異なる2色が差し違っていく状態の縞が伸びます。色の濃淡は、プレートロールが少し遅かると色が伸びる方向に変わります。
- 4分・2分という縞柄は、プレートロールでのみなる縞。異なる縞もいれこれでもOK
- プレートロールには、縞の幅が一定していません。



新しい色相縞柄が
こんな風に伸びる
新しい色相の
おもしろさ



